

様式 2

附属機関等の名称 会議概要

- 1 審議会名...第3回安曇野市地域包括ケア推進会議...
- 2 日...時...平成29年...2月15日(水)...午後1時30分から午後3時まで...
- 3 会...場...市役所本庁舎4階...大会議室...
- 4 出席者...高橋千治委員、高橋喜博委員、横林和彦委員、内川謙治郎委員、佐藤はるみ委員、山田きく美委員、金井洋子委員、塩原秀治委員、中山栄樹委員、松嶋隆徳委員、熊井深男委員、藤原真理委員、山田高久委員、池田陽子委員、伊藤勉委員、宮澤健委員、屋鋪浩三(代)委員、山下邦二委員、山田稔委員(欠席委員：山本泰士委員、鳥羽昌弘委員、中島美智子委員、内山隆二委員)...
- 5 市側出席者...堀内保健医療部長、古畑介護保険課長、野本長寿社会課長、藤原課長補佐、西澤係長、岩原主査、藤澤保健師、酒井保健師、宮入社会福祉士、細萱主事...
- 6 公開・非公開の別...公開...
- 7 傍聴人...0人...記者...0人...
- 8 会議概要作成年月日...平成29年3月1日...

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱書の交付
- 3 あいさつ(堀内部長)
あいさつ(高橋会長)
- 4 協議事項
 - (1) 地域包括ケアシステムの構築に向けた市の取組について
 - ①安曇野市の現状と地域ケア体制構築への取組
 - ②地域ケア個別会議の取組と課題
 - ③認知症施策推進への取組
 - ④在宅医療・介護連携の推進
 - ⑤生活支援・介護予防の取組
 - ア) 介護予防推進
 - イ) 介護予防・日常生活支援総合事業
 - ウ) 生活支援体制整備事業
 - ⑥高齢者・障がい者の「安曇野市地域見守り活動に関する連携協定」の実施
 - (2) 委員の皆様から出された課題の解決について(グループワーク)
テーマ
「軽度認知障害の一人暮らし高齢者が、地域で自分らしい暮らしを続けるためには…」
- 5 その他
- 6 閉会(松嶋副会長)

II 審議概要

4 協議事項

- (1) 地域包括ケアシステムの構築に向けた市の取組について(事務局より説明)

委員より意見・質疑

委 員：認知症サポーター養成講座受講者が活動できる場等はあるか。
子どもを対象とした認知症サポーター養成講座の開催はあるか。

事務局：市として活動の場はないが、市内の認知症カフェにてボランティアの受け入れをしており、認知症サポーター受講者へ情報提供している。
小中学校の介護施設慰問等の事前学習や社協主催の福祉講座の一環として認知症サポーター養成講座を開催している。

委 員：生活支援体制整備事業の中で、サービス提供団体の連携・強化を深めるために具体的にどのような取り組みをしているか。

事務局：協議体の中でそれぞれの団体の活動を報告し、課題等の共有をした。それぞれの団体の活

動を知ったことで、お互いの活動への協力や情報提供などの取り組みも生まれてきている。

(2) 委員の皆様から出された課題の解決について（グループワーク）

グループワークで話し合われた主な内容（課題解決に向けて必要と思われる内容等）

①Aグループ

- ・元気な頃から「出かけられる場」「交流の場」に参加できるようにする。このことは、認知機能の低下防止や支援の輪の広がりにつながり、独居生活を可能にすることにつながる。具体策としては①知っている人が誘うのが効果的。②交流の場への参加手段の情報提供。③参加しやすい体制づくり。
- ・若いころから仕事以外の仲間づくり。
高齢になってから仲間を作るのは難しく、仕事を離れると孤独になってしまう場合もある。
- ・食の確保
民間も含めた多様な配食サービスにより、軽度認知障害などの独居高齢者の生活を支えることにつながる。

②Bグループ

- ・会話の中で、相手の言葉が理解できないと混乱してしまうので、やさしくわかりやすい言葉で接することが重要。
- ・在宅生活を継続させるために、家の整備等環境面の整備も重要。
- ・近隣の人たちが気にかけて見守る体制構築が必要。
- ・認知症の早期発見のため、周りの人が普段の生活で異変に気づいたら、地域包括支援センターや市役所に相談し受診につなげる。
- ・人と接するためには、地域の仲間づくりが必要で、お互いを気にかけることにつながる。老人クラブへの参加も積極的に加入を勧める。

③Cグループ

- ・高齢者のためにサービスを提供するものと、サービスを希望する高齢者がつながるように取り組みを進めていく。
- ・ボランティアを希望する人が、ボランティアに参加しやすいような体制を整える。
- ・交通インフラなど地域で対応できる方法があるか検討する。
- ・地域の支え合いで、在宅で住みやすい環境を整え、施設の負担を軽減する。

④Dグループ

- ・地域包括ケアという言葉は、関係者間ではポピュラーになっているが、市民にはまだ馴染みが薄い言葉であることから、制度の主旨や具体的な方法のPRを強化していく必要があると思われる。
- ・特に、介護予防の観点を市民にどう伝え、どう実践に移していくか、支える側と支えられる側のやる気をどう起こし、参加者をどう増やすか、具体的な方策や課題解決方法を市が示し、実践をリードすることが重要と考える。

5 報告事項（事務局より説明）

委員より意見・質疑はとくになし